

代表質問(地元課題②) 糟屋郡における『主要渋滞箇所対策』について

■糟屋郡の現状と富永の課題認識

(i) 続く人口増加と交通量の増加

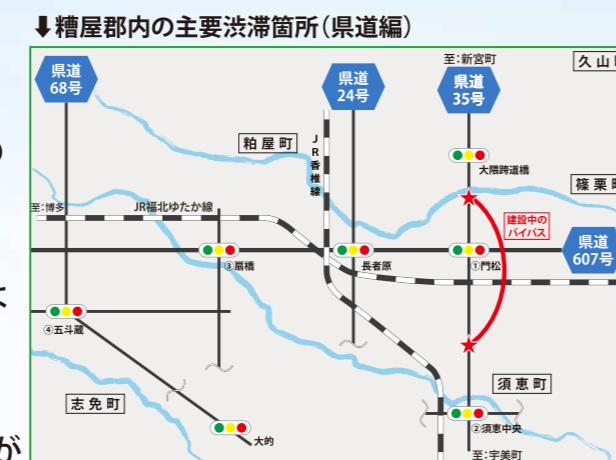
糟屋郡の人口23.4万人(10月末時点)は、全国375ある『郡』の中で最多であり、国立社会保障・人口研究所は2040年頃まで人口増加が続くと予想しています。

更に、最近では、福岡市内の地価の上昇を背景に、糟屋郡によりよい住環境を求めて、転居されるケースも多いと聞きます。

(ii) 県道整備の遅れ

糟屋郡内には、「主要渋滞箇所」として公表されている交差点が8箇所ありますが、そのうち上府交差点を除く*7箇所が県道の交差点です。筑紫野古賀線(県道35号)をはじめ、多くの県道で円滑な交通が阻害され、ドライバーはもとより、沿線住民の生活に大きな支障が出ていることは明らかです。

*7箇所:大的、五斗藏、須恵中央、扇橋、長者原、門松、大隈跨道橋交差点



各路線の事業(工事)の進捗状況

- ①門松交差点/大隈跨道橋交差点【延長】1.6km(バイパス整備)
【事業年度】平成16年度～[R4内容]道路改良工事、交通安全施設工事
- ②須恵中央交差点【延長】3.6km(現道拡幅整備)
【事業年度】平成24年度～[R4内容]用地買収、道路改良工事
- ③扇橋交差点【延長】1.7km(バイパス整備)
【事業年度】平成21年度～[R4内容]用地買収、道路改良工事
- ④五斗藏交差点【延長】0.6km(現道拡幅整備)
【事業年度】令和2年度～[R4内容]用地測量、物件調査



■富永の思いと質問の意図

毎朝、各交差点において、清掃・街頭活動中に著しい渋滞を目にしたたびに、糟屋郡内の渋滞対策は喫緊の課題であると強く感じています。バイパス整備が完了すれば、門松、大隈跨道橋、長者原交差点と同時に3箇所の渋滞が緩和するのではないかと考え、早期のバイパスの工事完了と供用開始を要望し続けています。



■主要渋滞対策に関する知事の認識と今後の取組み(答弁要約)

糟屋郡内で県が管理する7箇所の主要渋滞箇所は、交通量が非常に多く、慢性的に交通渋滞が発生しており、円滑な交通を確保するための対策が必要。現在、この7箇所の渋滞緩和を図ること等を目的として、筑紫野古賀線、福岡太宰府線、福岡東環状線等で道路拡幅事業やバイパス事業を実施中。

このうち、門松交差点については、平成16年度からバイパス事業を実施中。

現在、バイパス部分の工事を概ね完了させ、バイパス部分と現道をつなぐ工事を実施中。

⇒「早期の供用」との答弁で、具体的な完成時期の言及は得られませんでした。

今後も、関係者のご理解を頂き、事業用地を確保するとともに、国からの交付金等を活用した予算の確保に努め、事業の進捗を図り、糟屋郡内における渋滞対策に取り組んでまいります。



福岡県議会議員 富永よしうき事務所

〒811-2412 福岡県糟屋郡篠栗町乙犬 678-1

TEL : 092-931-5726

FAX : 092-931-5727

<https://t-yoshiyuki.jp>



富永 芳行 (39歳・当選1回)

- 県立福岡高等学校（高54回卒・ラグビー部）
- 早稲田大学（アジア社会論 / ラグビーチーム）
- 株式会社博多大丸（販促企画 / 物産展等担当）
- 立憲民主党福岡県第4区総支部代表代行
- 福中・福高同窓会顧問
- 妻、長男（8）、長女（5）と篠栗町乙犬在住



県政報告

新
粕
久
福岡県議会議員(糟屋郡選出)
志
篠
宇
2023年月日時頃
ご挨拶に参りました。

富永よしうき

2023年月日時頃

ご挨拶に参りました。

2023年1月
Vol.12



■会派代表質問に富永が初めて登壇しました!

12月7日(水)の午後、富永は所属する「民主県政クラブ県議団」の20名を代表して、知事や教育長、警察本部長に対して質問(45分)を行いました。

冒頭、日頃よりご指導を頂いている会派の先輩方や傍聴にお越し頂いた約50名の支援者の方への謝意とともに、残り4ヶ月の任期も全力で取り組む決意を述べ、質問項目に入りました。4年間の任期中に代表質問で登壇できるのは会派で16名。その貴重な機会を頂いたことに改めて感謝申し上げます。(主な質疑と答弁は中面に、富永の地元課題の質疑と答弁は、裏面に記載。)

■福岡県議会2022年12月定例会『概要』

2022年12月定例会は、12月1日(木)～20日(火)までの20日間の会期で開催されました。開会日の冒頭に、服部知事から地域経済の活性化と成長・発展に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行に備え、医療提供体制を強化するための補正予算案の他、条例案など計29の議案が提案されました。また12月13日には、国の補正予算成立に伴う予算議案2件が追加提案され、いずれの議案も審議を経て20日に本会議で議決されました。

補正後の今年度予算の合計は、約3兆3,338億円です。

■2022年度12月補正予算と追加提案分のポイント

1 予算編成の考え方

- 地域経済の活性化と成長・発展に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行に備え、医療提供体制を強化
- 県議会議員選挙、人事委員会勧告に基づき給与改定に必要な経費を計上

(単位:百万円)

区分	当初予算 A	現計予算 B	12月補正 予算 C	12月補正後 予算 D=B+C
一般会計	2,152,926	2,253,686	15,407	2,269,093
特別会計	995,064	995,064	0	995,064
計	3,147,990	3,248,750	15,407	3,264,157

2 補正予算の規模

- 国の補正予算を最大限活用し、「地域経済の活性化と成長・発展」に取り組むとともに、「次代を担う人財」の育成、「新型コロナウイルス感染症対策」、「安全・安心の確保」に必要な経費を計上

(単位:百万円)

区分	当初予算 A	現計予算 B	12月補正予算 C	追加提案分 第5号 D	計 E=C+D
一般会計	2,152,92	2,253,686	15,407	69,653	85,060
特別会計	995,064	995,064	0	0	995,064
計	3,147,990	3,248,750	15,407	69,653	85,060

3 主な内容

- 地域経済の活性化と成長・発展
- 新型コロナウイルス感染症対策
- 県議会議員選挙
- 安全・安心の確保

(単位:百万円)

項目	予算額	特定期間	財源
○地域経済の活性化と成長・発展	4,400	4,400	
○新型コロナウイルス感染症対策	7,643	3,768	3,878
○県議会議員選挙	517		517
○安全・安心の確保	2,787	100	2,887
合計	15,407	9,886	0

追加提案分

- 国の補正予算を最大限活用し、「地域経済の活性化と成長・発展」に取り組むとともに、「次代を担う人財」の育成、「新型コロナウイルス感染症対策」、「安全・安心の確保」に必要な経費を計上

(単位:百万円)

区分	当初予算 A	現計予算 B	12月補正 予算 C	追加提案分 第6号 D	計 E=C+D
一般会計	16,837	13,267	3,115	57	398
特別会計	224	166	13	45	946
計	1,721,20	1,250,02	22,621	775	1,566

(単位:百万円)

項目	予算額	特定期間	財源
○地域経済の活性化と成長・発展	16,837	13,267	3,115
○次代を担う人財の育成	224	166	13
○新型コロナウイルス感染症対策	1,472	526	946
○安全・安心の確保	51,120	26,158	22,621
合計	69,653	40,117	25,736

(単位:百万円)

22世紀につながる県政に！ 糟屋郡7町の未来に全力トライ！ 古い政治に強烈タックル！

民主県政クラブ県議団 代表質問(要旨)

一、県政推進の基本姿勢について

1. 来年度の予算編成に関する基本方針
2. 市町村振興の更なる推進
3. ジェンダー平等の福岡県づくり
4. 新型コロナウイルス感染症対策

以上の項目について(持ち時間45分)会派を代表して、知事、教育長、警察本部長に質問しました。
郡部選出、子育て世代の富永らしい質問ができたと思います。紙面の都合上、質問と答弁の一部を掲載します。

■市町村振興の更なる推進について

【富永】県内60市町村それぞれに地域の実情や課題、ニーズは異なる。

7町選出の議員として、今後の県の市町村支援のあり方に注目している。

本年、新たに設置された「市町村振興局」についてその実態と実績を問う。

【服部知事】市町村振興局長が、4月以降に40市町村を訪問、市長村長と面会。

新たに配置された地域政策監3名は、担当地域に頻繁に赴き、地域の課題の把握に注力している。市町村の政策立案や推進を支援する「政策支援課」と市町村の行財政の円滑な運営を支援する「行財政支援課」が一体となって市町村支援を行う。多様な課題に対して、市町村とともに解決を目指している。



■子どもの貧困対策の推進について

【富永】新型コロナの影響で子どもの貧困状況は更に悪化している。知事は、「子どもの貧困ゼロ」を公約としているが、県内5箇所の子ども支援オフィスの相談内容のみで実態把握をしようとしており、県独自の調査が必要。今後、どのように子どもの貧困対策を推進していくのか問う。

【服部知事】子どもの貧困の実態把握のためには、世代間連鎖の観点から、親の貧困状況も把握する必要があり、26の指標によって現状把握を行っている。子ども支援オフィスの相談件数は、コロナ前の2倍に増加しており、相談内容の分析で貧困の実態を把握できると考えている。(県独自の調査不要)
今後、こども家庭庁の発足に合わせ、福祉労働部内に新たな課を設けて、保健医療介護部、教育委員会等、部局横断的に子どもの貧困対策に対応する。



■二セ電話詐欺対策について(警察本部長)

【富永】二セ電話詐欺の被害額が増加傾向にある。主に、高齢者、女性が被害に遭われている。暴力団の資金源でもあり、対策が急務だと考える。本県では、プロジェクトチームを編成して、対応しているが、兵庫、愛知県警のように、「特殊詐欺特別捜査隊」が必要では?見解を問う。

【岡部本部長】現在、警察本部長を長とする特殊詐欺総合対策委員会を設置し、組織全体で対応中。今後、他府県の取り組みを参考に情勢に応じた組織体制の見直しと必要な体制強化を図る。



新宮町消防団(第4分団)が全国消防操法大会(小型ポンプの部)で優勝!

10月29日に千葉県で行われた第29回全国消防操法大会で新宮町消防団の皆さまが見事、全国優勝されました。誠におめでとうございます!日頃から地域の安心・安全を守って頂いておりますことに心から感謝を申し上げます。



↑知事表敬の様子(12月6日)

■保育所の安全な送迎バス運営に対する支援について

【富永】保育所のバス置き去り事案は、保育現場の人手不足が大きな要因であり、装置導入だけでは、根本的な解決には繋がらないと考える。幼稚園や一部の認定こども園には、送迎バスの運転手の人事費(通園送迎加算)が公定価格に含まれるが、他の認定こども園では含まれない。制度不均衡の解消を国に求める。保育所の送迎バスの必要性と県独自の支援策について知事の見解を問う。

【服部知事】本年9月現在、送迎バス等を運行している認可保育所は

937園中84園(9.0%)保育所のバス送迎は、保育外のサービスとして実施されているものと認識している。

地域の交通事情によって、保育所の子どもの送迎サービスが必要な場合もある。今後、通園バスの利用実態や市町村の支援状況を調査し、国の補助制度や地域の育児援助事業を有効に活用できるように、市町村や保育所に情報提供を行う。(県独自支援には消極的な答弁。)



■公立学校における部活動指導について(教育長)

12月補正予算(追加分):約505万円

*公立中学校支援

【富永】部活動指導員制度が2017年度に開始され、来年度から休日の地域移行が段階的に開始される。教職員の働き方改革、負担軽減に繋がると同時に、子どもたちにもより専門的な指導環境を提供できる可能性に期待する。現在の取り組み状況を問う。また、指導員の人材確保において、地域間格差が生じないように、市町村教育委員会への支援を要望する。

【吉田教育長】県立学校では、部活動指導員が(11月現在)102校に265名が配置され大学と連携し、学生を配置する取り組みも進んでいる。一方で、政令市を除く58市町村のうち、35市町村立の中学校で財源や人材の確保が困難で部活動指導員が配置されていない。今後、国が改訂する部活動に関するガイドラインを踏まえ、市町村における部活動の円滑な地域移行を支援する。

■通学路の安全確保について~大川小学校校区~

【富永】県道伊賀仲原線(粕屋町)は、大型車の通行も多いにも関わらず、歩道がなく、車道も狭い。雨の日は、傘と車両が接触するなど差し迫った危険がある。子どもたちだけでなく、「旗当番」で見守り活動をされる保護者や地域の方も非常に危険な状況。特に、特異な形状をしたJR香椎線の伊賀踏切を中心に同路線の抜本的な安全対策を要望する。

【服部知事】県道伊賀仲原線沿線には、住宅や商店が密集し、小学校や保育所も複数あるが、十分な歩道も道路幅もない。通学路の緊急点検で大川小学校付近の4箇所で即効性のある対策が必要と判断した。JRや県警等と調整し、4箇所の工事は、**今年度中に完了予定**。工事完了後の状況や地元粕屋町の意向を踏まえて、抜本的な安全対策の必要性を検討する。



富永も火曜・金曜の朝、篠栗町で見守り活動を実施中です。



番号	対策必要箇所名	学校名	対策内容	対策完了(予定)
①	伊賀踏切～戸原東2丁目	大川小学校	踏切内の歩行者スペース確保、路側帯のカラー化	令和4年度末
②	南仲通交差点～伊賀踏切	大川小学校	外側線の引き直し	完了
③	原町2丁目～若宮2丁目	中央小学校	路側帯のカラー化	令和4年度末
④	原町2丁目～原町2丁目	中央小学校	路側帯のカラー化	令和4年度末